

第160期

株主の皆様へ

平成24年4月1日～平成25年3月31日

証券コード 5406

KOBELCO

お知らせ

- 「株主様見学会参加者募集のご案内」を6ページに掲載しております。

株式会社 神戸製鋼所

「素材系事業」と「機械系事業」の2本柱に加え 電力供給事業を安定収益基盤とする 独自の複合経営を強化してまいります。



代表取締役社長

川崎博也

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

本年4月1日に、私が代表取締役社長に就任いたしました。非常に厳しい環境の中で、果たすべき責務の重大さを痛感しておりますが、全力で、今後の社業の発展にあたりたいと思っておりますので、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、当期の当社グループの業績は、後述の業績のご報告にてご説明させていただきますとおり、鋼材事業の収益力低下などにより、2期連続で当期純利益の赤字という、株主の皆様のご期待に沿えない、大変厳しい結果となりました。

また、この結果を踏まえ、当期の配当につきましては、見送ることとさせていただきます。

株主の皆様には、多大なご迷惑をおかけすることになり、誠に申

し訳なく深くお詫び申しあげますが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

こうした状況を踏まえ、当社グループは、2013年度黒字化必達を目標に、昨年10月に体質強化委員会を立ち上げるなど、収益回復への取組みを開始いたしました。この体質強化委員会を中心とした取組みや徹底的なコスト削減を全社を挙げて実施することに加え、鉄鋼事業で実施中の戦略的コストダウン投資の効果の一部取込み、さらには、減価償却方法の変更による収益押し上げ効果を取り込むことで、2013年度の連結業績については、経常利益450億円、当期純利益350億円の黒字を達成できるものと見通しております。

さらに、2013年度以降の収益改善にむけて、本年5月に「2013～2015年度グループ中期経営計画」を策定いたしました。

この中期経営計画の3年間は、「KOBELCO VISION“G”」を実現

するための「経営基盤の再構築」の期間、さらに、2016年度以降の中長期を見据えた、「収益の安定」と「事業の成長」に向けた布石をうつ期間と位置付け、今後様々な施策に着手してまいります。

「経営基盤の再構築」としては、鉄鋼事業でのコストダウンの徹底や、コストダウン投資効果の着実な取込みによる、事業部門黒字化に取り組むこと、棚卸資産の削減、債権・資産の売却などによるキャッシュフローの創出、海外拠点の活用による最大受注量の確保などを進めてまいります。

「安定と成長への布石」については、「鋼材事業の構造改革」、「機械系事業の戦略的な拡大」、「電力供給事業の拡大」を重点課題としました。

具体的には、2017年を目処に、神戸製鉄所の上工程設備の休

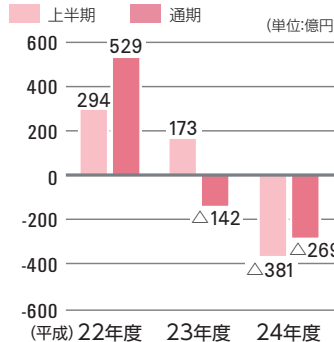
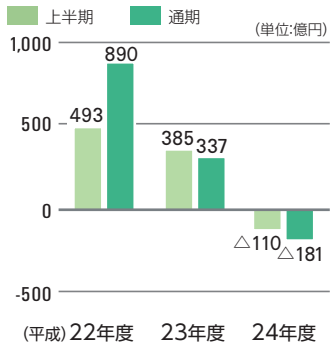
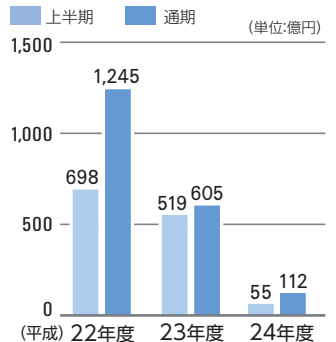
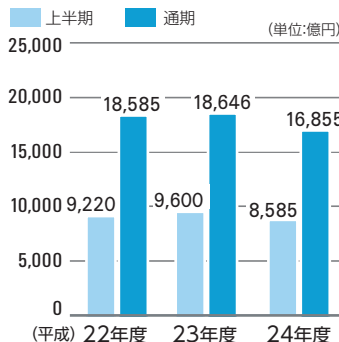
止と加古川製鉄所への集約による鋼材生産の抜本的な収益力強化、圧縮機や建設機械の事業拡大、栃木県真岡市での発電所建設に向けた手続きの推進、神戸製鉄所高炉跡地での電力供給事業の可能性の検討などを積極的に進めてまいります。

当社グループは、安全やコンプライアンス意識の向上を図るとともに、中期経営計画に掲げた取組みを通じて、「素材系事業」と「機械系事業」の2本柱に加え、電力供給事業を安定収益基盤とする当社グループ独自の複合経営を強化し、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

※中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)



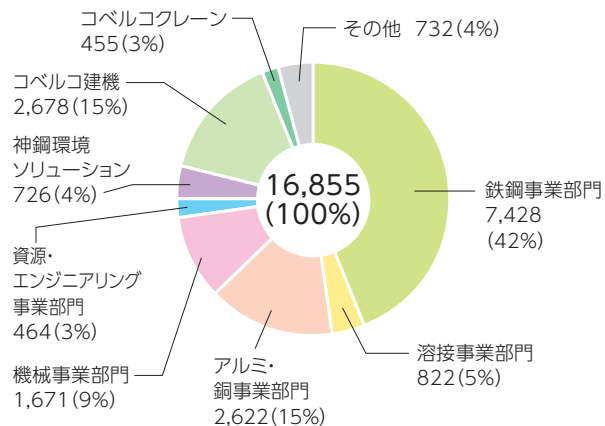
■当期の概況

当期の我が国経済は、前半は、震災からの復興に伴う需要の増加などを背景に、緩やかながら回復基調をたどりましたが、後半は、円高の是正はあったものの、エコカー補助金の終了などもあり、総じて景気は低調に推移しました。海外では、米国においては緩やかながら景気回復基調が維持されたものの、欧州における金融不安、中国での景気拡大鈍化が継続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量は、第2四半期まで堅調に推移した国内自動車向けの需要が第3四半期以降に減速したことに加え、鋼材については海外市況の低迷や円高の影響などにより輸出環境が悪化したこと、アルミ・銅圧延品については主にIT関連分野の需要低迷が継続したことから、前期を下回りました。油圧ショベルの販売台数は、震災からの復興に伴い需要が堅調であった国内や、東南アジアにおいては増加したものの、中国では大きく減少し、全体としては、前期を下回りました。

この結果、鋼材販売数量の減少や販売価格の低下、油圧ショベルの販売台数の減少が大きく影響し、当期の売上高は、前期に比べ1,791億円減収の1兆6,855億円となりました。また、これらの影響に加え、鋼材やアルミ・銅圧延品において在庫評価損が拡大したこと、営業利益は、前期に比べ493億円減益の112億円、経常損益は、前期に比べ519億円減益の181億円の損失となりました。また、当期純損失は、繰延税金資産の計上額の増加などがあったものの、前期に比べ127億円減益の269億円となりました。

事業別売上高(平成24年度) (単位:億円)



(注)上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額745億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆6,855億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



鉄鋼事業部門

7,428 億円

(前年同期比 △13.0%)



- 鋼材販売数量：造船向け需要低迷、海外市況低下、円高影響により前期比減
- 鋼材販売価格：アジア地域の鋼材需給緩和継続、主原料価格下落により前期比下落
- 鍛鍛鋼品売上高：造船向け需要低迷、価格下落により前期比減
- チタン製品売上高：海外需要減少により前期比減
- 経常損益：前期比355億円悪化の502億円の損失



自動車用弁ばね用鋼



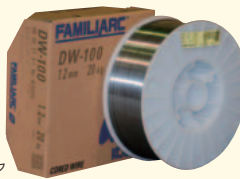
溶接事業部門

822 億円

(前年同期比 △2.6%)



- 溶接材料販売数量：東南アジア、米国での需要は堅調に推移も、国内の造船向け需要の減少により前期比減
- 溶接システム売上高：国内や中国建機向けの需要減少により前期比減
- 経常利益：前期比9億円減の21億円



フラックス入りワイヤ



アルミ・銅事業部門

2,622 億円

(前年同期比 △9.6%)



- アルミ圧延品販売数量：自動車向け需要が下半期減速、液晶・半導体製造装置関連の需要低迷継続により前期比減
- アルミ鑄造品売上高：液晶・半導体製造装置関連の需要低迷継続により前期比減
- 銅圧延品販売数量：銅管は回復も、板条は半導体向け需要低迷により前期比減
- 経常利益：前期比21億円減の39億円



アルジェイドII
用途:半導体・液晶製造装置や太陽電池/パネル製造装置向け



機械事業部門

1,671 億円
(前年同期比 +9.4%)



- 受注高：円高を背景に海外メーカーとの競争激化など受注環境悪化により前期比24.5%減の1,095億円
- 当期末受注残高：1,166億円
- 経常利益：樹脂機械など大型案件の計上により前期比21億円増益の120億円



二軸混練押出機 HYPERKTX



資源・エンジニアリング 事業部門

464 億円
(前年同期比 △16.8%)



- 受注高：原子力関連分野における汚染物質処理案件の需要増により前期比14.7%増の335億円
- 当期末受注残高：637億円
- 経常損益：前期比16億円減益の13億円の損失



鋼製砂ろえん堤



神鋼環境ソリューション

726 億円
(前年同期比 +2.1%)



- 受注高：廃棄物処理関連事業で大型案件を受注も、水処理関連事業等の受注減により、前期比6.7%減の735億円
- 当期末受注残高：435億円
- 経常利益：案件構成の変化等により前期比3億円減の39億円



小型高純度水素
酸素発生装置
(H₂ BOX)



コベルコ建機

2,678 億円
(前年同期比 △12.8%)



- 油圧ショベル販売台数：前期比減少
〔国内〕震災復興需要により需要堅調
〔海外〕東南アジア増加も、中国景気拡大鈍化影響で大きく減少
- 経常利益：前期比160億円減の68億円



20トン級ハイブリット
油圧ショベル
〔SK200HJ〕



コベルコクレーン

455 億円
(前年同期比 △5.2%)



- 販売台数：前期比増
〔国内〕震災復興需要により増
〔海外〕北米、東南アジアを中心に海外需要が回復基調に転換
- 売上高：販売機種構成変化影響により減少
- 経常損益：販売機種構成変化影響により前期比24億円減の22億円の損失



Mastertech-Gシリーズ
「省エネシステム
「Gモード」搭載
クローラクレーン」



その他

732 億円
(前年同期比 +5.9%)



- コベルコ科研：
〔液晶配線膜用ターゲット材〕需要回復基調
〔試験研究事業〕エレクトロニクス業界向け需要低迷
- 神鋼不動産：
〔分譲事業〕引渡戸数が増加
〔賃貸事業〕堅調に推移
- その他の事業全体の経常利益：前期比3億円増の75億円



ジークレフ宝塚武庫山

(注) 枠内の数字は売上高を記載しています。

2010年4月に、神戸製鋼グループの近い将来の企業像を掲げた中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION“G”」をスタートさせて3年が経過しました。この期間、当社グループは積極的なグローバル事業展開に取り組んでまいりました。一方で、事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、今後の当社グループの成長のためには、再度、経営基盤の整備が必要であるとの考えのもと、これからの3年間とさらにその先を見据えた今後の当社グループの取組みをまとめた、グループ中期経営計画を発表いたしました。その内容を簡単にご紹介いたします。

経営基盤の再構築

◆鉄鋼事業の収益力強化

- ・生産現場レベルでのコストダウン
- ・安価品調達などによる調達コストダウン
- ・溶銑予備処理設備などコストダウン投資の取込み

◆成長分野・地域での販売量の確保

- ・成長分野(自動車、資源・環境、エネルギー、インフラ)、成長市場(新興国、北米など)でのこれまでの3年間に展開を進めてきた海外拠点の最大限活用による最大販売量の確保

◆体質強化活動

- ・体質強化委員会を中心に、固定費・調達コスト・品質失敗コストの削減実施

◆財務体質の改善

- ・棚卸資産圧縮、債権・資産売却によるキャッシュ創出
- ・投資案件の厳選

◆ものづくり力、技術開発、人材育成強化

◆コンプライアンスの徹底と社会貢献

2013年度黒字化

2015年度コストダウン効果600億円
(2012年度比)

海外売上高比率
40%
(2012年度34%)

2015年度コストダウン効果300億円
(2012年度比)

～2015年
創出キャッシュ総額
1,200億円

2015年度末
DEレシオ 1.3倍

収益の安定と事業の成長に向けた布石

◇鋼材事業の構造改革

- (鋼材生産の上工程の高効率化)
- ・2017年を目処に、神戸製鉄所の高炉など上工程設備休止し、加古川製鉄所に集約
(神戸製鉄所は特殊鋼圧延専用工場に生まれ変わり)
- ・加古川製鉄所に最新鋭のブルーム連続鋳造設備、溶鋼処理設備新設、分塊圧延機能増強による競争力強化

◇機械系事業の戦略的拡大

- ・圧縮機事業のグローバル展開の強化、建機事業での欧米市場での再参入と強化などによる「機械系事業の戦略的な拡大」
- ・成長分野、成長市場での需要捕捉のため、他社提携やM&Aを視野に入れた事業展開の強化
- ・グループ連携や技術融合による新製品、新事業の拡大

◇電力供給事業の拡大

- ・栃木県真岡市に140万kW級のガス火力発電所建設推進(2019年～2021年稼動目標)
- ・神戸製鉄所 高炉跡地での電力供給事業の可能性検討

◇経営プラットフォームの検討

- ・事業構成やグループの出資形態などの変化にあわせた最適な経営体制等の検討

2013～2015

2016～

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様見学会を実施いたします。今回ご覧いただくのは、**高砂製作所**でございます。つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



開催場所：高砂製作所（兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3-1）

対象者：平成25年3月31日現在、当社株式1,000株以上をご所有の株主様

募集人数：320名(各回80名)

※募集人数には同伴者も含まれます。

株主様見学会の概要

申込番号	開催場所	実施日時 (平成25年)	集合時刻	解散予定時刻	集合・解散場所
①	高砂製作所	11月20日	8:50	13:00頃	JR加古川駅※
②			13:30	17:45頃	
③		11月21日	8:50	13:00頃	
④			13:30	17:45頃	

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。

※株主様見学会コースは徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。

※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。

抽選の結果は9月上旬にご通知する予定です。

※同伴者は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
- 株主様1名につき、2枚以上ご応募された場合

応募方法：同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。

(対象者の方にのみ、はがきを同封しております。)

【締切日:平成25年7月26日(金)到着有効】

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 株主様見学会係

TEL 078-261-4067

受付時間 10:00~17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)

これまでの開催実績(過去5回分)

	日 時	開催場所	募集人数	ご応募総数
第7回	平成23年 3月	神戸製鉄所	200人	3,935通
第8回	平成23年 11月	高砂製作所	240人	2,853通
第9回	平成24年 3月	加古川製鉄所	360人	2,825通
第10回	平成24年 10月	真岡製造所	240人	1,082通
第11回	平成25年 2・3月	神戸総合技術研究所・ 神戸製鉄所	285人	3,202通

環境への取組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

「グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上」

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協同

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■「国際・水素燃料電池展 (FC EXPO)」に出展

神戸製鋼グループは、2006年以来、7年ぶりに「国際・水素燃料電池展 (FC EXPO)」に出展しました。

この展示会は水素・燃料電池に関する幅広い分野の企業が一堂に会する展示会です。今回は神戸製鋼 (技術開発本部、機械事業部門)、神鋼環境ソリューション、神鋼エンジニアリング&メンテナンスが参加しました。

水素製造・精製装置、高圧水素圧縮機、熱交換器に加え、水素ステーションエンジニアリング、試験装置など水素社会全体への幅広い取り組みを紹介しました。今回の出展は日本経済新聞や多くの業界紙で取り上げられ、前回にも増して神戸製鋼グループの取り組みを知っていただくことができました。

超高圧水素圧縮機 (機械事業部門) や拡散接合型コンパクト熱交換器 (機械事業部門) のサンプルを置くなど、グループの製品・技術は来場者の関心を引きました。



■「地球温暖化防止活動環境大臣賞」を加古川製鉄所と神鋼環境ソリューションが同時受賞

加古川製鉄所と神鋼環境ソリューションは「平成24年度地球温暖化防止活動環境大臣賞」を受賞しました。

この賞は環境省が平成10年度から地球温暖化対策推進の一環として、毎年、地球温暖化防止月間である12月に、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対しその功績を讃えるための表彰です。

加古川製鉄所は環境負荷の低減などを目的として、2009年6月からマイカー通勤を公共交通機関や通勤バス、自転車などへ転換する「エコ通勤」に取り組んでおり、この結果、取り組み前は約8,000台/日であったマイカー通勤台数を約半分の3,900台削減し、CO₂排出量を2009年度に約2,100トン、2010年度に約2,600トン、2011年度に約2,600トン削減しました。

また、神鋼環境ソリューションは「温室効果ガス削減型下水汚泥焼却炉の開発」活動にて受賞しました。この開発した温室効果ガス削減型下水汚泥焼却炉『高効率二段燃焼炉』を採用することにより、従来の炉形式である気泡式流動焼却炉に対して温暖化係数の高い亜酸化窒素 (N₂O) 排出量を50~80%、汚泥焼却設備全体から排出されるCO₂排出量を約60%削減可能です。

神戸製鋼グループでは、今後も環境負荷低減の取り組みを進めると共に、高品質の製品供給を通じたCO₂削減に取り組んで参ります。



加古川製鉄所
「エコ通勤」の通勤風景



神鋼環境ソリューション
表彰を受ける岡本圭祐取締役
専務執行役員

社会貢献への取組み

社会との共生

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの成長をお手伝いするため、様々な活動を行なっています。

2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」では、子供たちを対象に遊具や絵本などのほか、様々な活動費や備品購入費などの支援を行なっています。2012年度からはグループ会社も加わり、対象エリアが、神戸製鋼グループの事業所・研究所が立地する15市1町に拡がりました。2013年度には、更なる拡充を図ってまいります。

また、当社が支援を行なっているNPO法人「SCIX」が考案した球技「スペースボール」は、子供たちの身体能力の向上や体幹の形成に適しており、小学校の教育プログラムの一環として役立てていただけるようサポートを開始しました。

神戸製鋼グループは、今後も、こうした活動を継続し、社会との共生を目指してまいります。



寄贈した遊具と子供たち



スペースボール体験の様子

ラグビーを通じての活動

当社ラグビー部、神戸製鋼コベルコスティーラーズは毎年、横浜グラウンドにて地域住民やファンの方々とのおふれあいを目的にコベルコラグビーフェスタを開催しておりますが、昨年7月15日に行ないました。

約3000人のお客様がお見えになり、ラグビーのイベントやお客様も参加する運動会を行なうほか、選手たちが運営する屋台などにも多くのお客様が訪れ、選手と身近にふれあっていただきました。



コベルコラグビーフェスタの様子

募金活動

神戸製鋼コベルコスティーラーズは2012年9月28日、2011-2012シーズンのファンクラブ会員年会費の一部と、チームのオフィシャルパートナーである、麒麟ビバレッジ株式会社が各所に設置している「神戸製鋼コベルコスティーラーズ自動販売機」(現在28台設置)での売上金の1%、そして昨季のトップリーグ試合会場で実施した募金活動の合計1,913,536円を、東日本大震災義援金として日本赤十字社 兵庫県支部に寄附いたしました。



神戸製鋼コベルコスティーラーズ自動販売機

事業分野

(平成25年3月31日現在)

鉄鋼事業部門

条鋼(普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼)、鋼板(厚板、中板、薄板<熱延・冷延・表面処理>)、鋼片、鑄鍛鋼品(船用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

溶接事業部門

溶接材料(各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス)、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品(飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板)、銅圧延品(半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管)、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鑄鍛造品(航空機用部品、自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品、建材、建設用仮設資材等)

機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント(製鉄圧延、非鉄等)、各種内燃機関

資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント(還元鉄)、各種プラント(ペレタイジング、石油化学等)、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム

神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器

コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダー

コベルコクレーン

クローラクレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、高压ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [212社]

※印は持分法適用会社であります。(平成25年3月31日現在)

鉄鋼事業部門：42社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、神鋼建材工業株式会社、神鋼神戸電機株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング & メンテナンス、株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、*神鋼鋼線工業株式会社、*関西熱化学株式会社、*株式会社テザックワイヤロープ、*プロテック コーティング CO.、*エスアールティー オーストラリア Pty Ltd 他

溶接事業部門：22社

エヌアイエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD. 他

アルミ・銅事業部門：26社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼汽車鋁部品(蘇州)有限公司、コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC、コウベ プレシジョン テクノロジー SDN.BHD. 他

機械事業部門：20社

コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼造機株式会社、神鋼圧縮機製造(上海)有限公司、*無錫圧縮機股份有限公司 他

資源・エンジニアリング事業部門：18社

ミドレックス テクノロジーズ, INC. 他

神鋼環境ソリューション：8社

株式会社神鋼環境ソリューション、神鋼環境メンテナンス株式会社 他

コベルコ建機：35社

コベルコ建機株式会社、東日本コベルコ建機株式会社、西日本コベルコ建機株式会社、成都神鋼工程機械(集団)有限公司、成都神鋼建設機械有限公司、杭州神鋼建設機械有限公司、成都神鋼建機融資租賃有限公司、タイ コベルコ コンストラクション マシナリー LTD.、コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD.、コベルコ コンストラクション マシナリー (USA) INC.、コベルコ コンストラクション イクイップメント インディア PVT.LTD. 他

コベルコクレーン：12社

コベルコクレーン株式会社 他

その他：29社

神鋼不動産株式会社、株式会社コベルコ科研、神鋼投資有限公司、コウベ スチール USA ホールディングス INC.、*神鋼商事株式会社、*京セラメディカル株式会社 他

(注) 資源・エンジニアリング事業部門は、本年4月1日付で、エンジニアリング事業部門に改称いたしました。

取締役および監査役、執行役員

※印は、各事業部門長であります。(平成25年6月26日現在)

取締役会長(代表取締役)
佐藤 廣士

取締役社長(代表取締役)
川崎 博也

■本社

取締役副社長(代表取締役)
藤原 寛明

常務執行役員
山口 貢

専務執行役員
沖田 誠治

常務執行役員
森地 高文

常務執行役員
花岡 正浩

執行役員
三宅 俊也

常務執行役員
杉崎 康昭

■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※山口 育廣

常務執行役員
宮下 幸正

専務執行役員
尾上 善則

常務執行役員
岩佐 道秀

常務執行役員
梅原 尚人

常務執行役員
藤井 晃二

常務執行役員
宮脇 新也

常務執行役員
後藤 隆

常務執行役員
水口 誠

執行役員
柴田 耕一朗

執行役員
対馬 靖

■溶接事業部門

専務取締役
※粕谷 強

執行役員
興石 房樹

■アルミ・銅事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※高橋 徹

常務執行役員
柴田 順行

常務執行役員
金子 明

常務執行役員
加藤 宏

執行役員
藤井 拓己

■機械事業部門

専務取締役
※榎木 一秀

常務執行役員
大瀨 敬織

執行役員
松田 彰雄

■エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※田中 順

常務執行役員
眞部 晶平

執行役員
森崎 計人

■社外取締役

取締役
北畑 隆生

取締役
山内 拓男

監査役(常勤)
大越 年祝

監査役(社外監査役)
佐々木 茂夫

監査役(社外監査役)
坂井 信也

監査役(常勤)
宮崎 純

監査役(社外監査役)
沖本 隆史

会社の概要

(平成25年3月31日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 228,830名
- 従 業 員 数 10,398名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜海岸通二丁目2番4号

(注)神戸本社は、本年4月1日に上記住所に移転いたしました。

☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号

☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・新潟(新潟市)・

北陸(富山市)・四国(高松市)・中国(広島市)・

九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海 外 ニューヨーク・シンガポール・上海

(注)「海外」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 〈鉄鋼〉加古川・神戸・高砂

〈溶接〉藤沢・茨木・西条・福知山

〈アルミ・銅〉真岡・長府・大安

〈機械、資源・エンジニアリング〉高砂・播磨

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

公告方法 電子公告

(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします。)

土・日、祝日を除く9:00～17:00

現在株券をお持ちの株主様や、以前株券をお持ちで現在株券の所在がわからなくなった株主様は、「特別口座」で管理されている可能性がありますので、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社にお預けでない株式について、証券会社の口座に移管することをお奨めします。

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社にお預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、漂白のために塩素を使用しない用紙、および植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。